

秋田市の水辺の環境について

秋田大学 学生員 ○渡 辺 辰 美

秋田大学 正 員 石井千万太郎

秋田大学 正 員 清水 浩志郎

1. はじめに

近年、生活の豊さ・潤いを求める社会の要求に応え、水辺空間のあり方が見直されてきている。しかし、水辺空間をとりまく環境には、依然、多くの問題点が残されている。本研究は秋田市の水辺空間をとりまく環境の調査を行い、その現状および問題点を把握しようとしたものである。

2. 秋田市の水辺空間の概況

秋田市内には、河川、港湾、海岸、公園、農業用排水路など各種の水辺空間がある。(図-1)

秋田市では、現在、良好な自然環境を確保するために「公園都市秋田市をつくる条例」を制定しており、その中において、魅力ある水辺空間の保全を促進している。しかし、現状では必ずしも市民にとって魅力ある水辺空間ばかりとは限らず、周辺地域に環境の悪化をもたらしているものもある。

また、現在までの段階では管理者も河川の治水機能、港湾機能などの整備に重点をおき、水辺環境機能、親水機能の整備についてはそれほど考慮していない状況である。

一方、全市民レベルでのクリーンアップ作戦などが行われ、市民の水辺空間に対する認識が高まってきている。

3. 秋田市の水辺空間の現状および問題点

1) 河川:

上流地帯は山間部や水田地帯を流下している河川が多く自然らしさを保っている。

中流地帯は水田地帯および住宅地域を流下しているが、市街地の進展により全般的に宅地化の傾向にある。このような地域においては、護岸がよく整備されている地点では環境の悪化は少ないが、未整備地点では河川にゴミ等が不法投棄されており環境の悪化が目立ち、住民の河川に対する意識が問われる。

下流地帯では主に住宅地域を流下している。太平洋では緩やかな護岸沿いに桜並木を植栽した散策路を設けており、地域住民の憩いの場となっている。

旭川は住宅、大型デパート、飲食店などが密集している市街地の中心部を流下しているが、そこでは画一的なコンクリート垂直護岸となっており、また、河川沿いに建ち並んでいる飲食店の多くは川面に背を向け、裏の空間をつくっていて、市の中心部にはふさわしくない景観となっている。その対策として現在この地区では河川を含めた都市再開発事業(コミュニティ・マート計画)¹⁾が進行している。

2) 港湾:

秋田港は、昭和40年に新産業都市指定を受けてからは企業の進出にともない、取扱貨物量の増加、船舶の大型化に応じた港湾設備が進行し、工業港としての発展を図られてきた。そのため、それまでは市民と密接な関係にあった港に立入禁止地区が増加し市民とのつながりも次第に薄れてきた。

近年になり港での取扱貨物量の減少など港湾の活動低下に伴い遊休化している港湾施設が出てきている。この様な状況において現在、市民港湾化を目指し、P.R.21計画²⁾を検討中である。

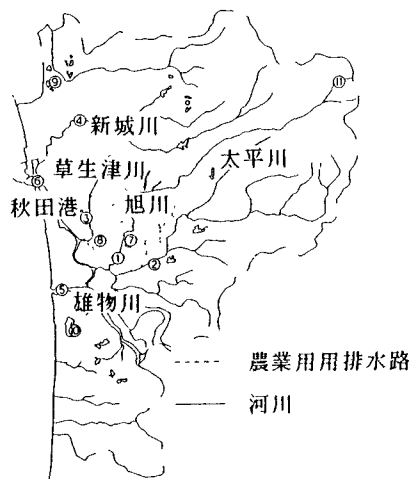


図-1 秋田市の水辺空間概況図

表－1 秋田市の主な水辺空間における現状及び問題点

種類	名称	区分	現 状	問 題 点
河 川	1 旭 川	上流地帯 中流地帯 下流地帯 河口地帯	市の中心的地帯を流下し、自然の残る山間の河川沿いの森、旭川ダム公園、別荘地の宅地化、更地が点在、一部に広い河川敷を有す ・農地の宅地化、更地が点在 ・市の中心街を流下、商店街が密集 ・魚礁の設置 ・コミュニティ・マート計画 ・工業地帯	・護岸未整備 ・趣一的なコンクリート垂直護岸、人工水路化 ・川面に背を向けた裏の空間 ・一般人の立入禁止
	2 太平川	上流地帯 中流地帯 下流地帯	・水田地帯を流下、農地の宅地化が進む ・住宅地帯を流下、緩やかな護岸、散策路、桜並木を有す	・河川周辺へのゴミ等の不法投棄 ・護岸未整備
	3 草生津川	上流地帯 下流地帯	・水田地帯を流下、農業排水路的役割 ・住宅地帯を流下、農業排水路、集落排水路からの排水	・水質汚濁が著しい 上流 BOD 5.1ppm 下流 BOD 9.7ppm
	4 新城川	上・中流地帯 下流地帯	・山岳部を流下 ・住宅地帯、水田地帯が点在	・護岸未整備
	5 雄物川		大河川 ・市民の釣り遊び、散歩の場、広い河川敷を利用した広場、グラウンド ・河川沿いのサイクリングロード	
港 湾	6 秋田港		・工業港 ・港湾機能中心の整備 ・取扱貨物量の低下 ・P.R.21計画	・立入禁止地区多数 ・市民とのつながり弱 ・港湾施設の有休化
海 、 岸		臨港地帯 周辺地帯	・火力発電所、週末処理場の立地 ・海岸線へのアクセス道無 ・新屋浜公園 ・男鹿半島が一望 ・南部に海水浴場	・市民の進入困難 ・海岸線の無人化
公 園	7 千秋公園		・市民の身近な憩いの場	・道路整備などによるお堀の減少 ・お堀周辺の寂然らしさの消失
	8 山王散策路		・城跡公園特有のお堀	
	9 小泉湧公園 (水心園)		・オフィス街の憩いの場 噴水・人工小川の設置	
	10 大森山公園 11 仁別国民の森		・郊外の憩いの場 ・多数の滝、水階段 ・動物園に隣接する湧 ・旭川上流の洪流、キャンプ場 で賑わう	
農 業 用 排 水 路		市街地 郊 外	・農業用としての機能を失う ・水路周辺部のスプロール現象 ・公共下水道の整備の立ち遅れ	・水路の暗渠化 ・水辺空間の減少 ・一般家庭の生活排水路化 ・用水路への不法排水 ・水質汚濁、周辺地域の環境悪化

3) 農業用排水路：

市街地では既に農業用としての機能を失った水路が多く、この様な水路は地域住民から水質汚濁や転落等の安全面など環境の悪化に不満の声が出ている。そのため、これらの水路は暗渠化の傾向にあり市街地から水辺空間が減少している。

郊外においては水路周辺の土地利用が進みスプロール現象にあり、公共下水道等の生活環境基盤整備が立ち遅れの状態にあることから農業排水路の生活排水路化や用水路への不法排水が行われている。そのため、水路に機能障害を及ぼしているばかりではなく水質汚濁等の環境の悪化をも招いている。

4. おわりに

本研究は秋田市の水辺空間における現状および問題点を抽出したものである。今後、都市における水辺空間の要請がますます高まるものと思われ、問題点の早期な解決が望まれる。事例の詳細については当日報告する予定である。また、本研究は昭和61年度秋田市文化振興助成により行われた研究成果の一部であることをここに記して感謝の意を表する。
参考文献)

1)「昭和60年度 コミュニティ・マート構想モデル事業

秋田外町商店街活性化モデル事業概要書」

2)「秋田港ポートルネサンス21調査」